

リスクに対処し、学生生活を全うする

大学生協連会長理事 庄司興吉

危機(クライシス)とリスクは違う。また、リスクは危険(デンジャー)とも違う。しかし、日本語にはリスクにぴったりに対応する言葉がないので、しばしば危機と訳されたり、危険と訳されたりしている。漢字熟語ではないので収まりが悪い場合が少なくないが、〇〇する恐れとか〇〇の恐れとかいう場合の「恐れ」がもっとも近い言葉かもしれない。

金融危機から深化し拡大した経済危機が世界中を覆い、日本でも失業率が5%代後半にはいるなど深刻な影響を及ぼしている。親が職を失い、学生が学業を続けられなくなるような事態も増えている。また、顕在化しにくいだけにもっと深刻なのだが、家計の状態が悪く、大学への進学を断念せざるをえない高校生も増えている。

経済危機は明らかに、市場経済を放置し、貨幣操作で景気変動を乗り越えられるとしてきた新自由主義の破綻であり、それを容認してきた主要国政府の責任である。この危機ははっきりと構造的なものなので、新自由主義を推進したり容認したりしてきた資本や政府に責任を取ってもらわねばならない。

大学は、このままでは学業を断念せざるをえない学生に、授業料免除の措置を講じたり、臨時の奨学資金を提供したり、などのことができるだけである。大学生協も、そういう大学に協力して、少しでも余裕があるかぎり、学生たちが学業を断念しなくてもすむようにしていきたいと思っている。

他方、赤信号なのに道路を渡るのは明らかに「危険」であるが、青信号で渡っても信号無視の車にはねられる「恐れ」はある。その意味では、深刻な経済危機が克服されても、学生生活にさまざまなリスクはつきまとっている。大学生協は、それらのリスクを、学生たちがお互いの助け合いをつうじて乗り越え、学生生活を全うすることができるよう、非営利の共済で支えていきたいと思っている。

(Campus Life, 20-090907)